

週日の説教

金 大烈 神父 2009年11月13日(金)

《親の心》

おはようございます

今日の福音(ルカ 17・26～37)を読んで自分の子供の頃を思い出しました。

私は子供の時に足のふくらはぎ(こぶら)を母によく打たれました。母は自分の部屋にいつも木の細い枝を置いてあったのです。妹達はともかく、三人の男の兄弟の話です。一番上の兄は、叩かれる事があれば直ぐに逃げ出してしまって叩かれる事がなかったそうです。二番目の兄は、叩かれる事をした事がない模範的な子供だったので、いつも彼は、褒められる事ばかりだったのです。

それで私は、逃げるのも卑怯な気がしてプライドが傷つくし、自分なりに考えても間違っただけをしてはいないと思うので、反抗しながら打たれました。血が出るくらい打たれた事を覚えています。その時、私が素直に「はい、ごめんなさい、間違いました」と、ひとと言ったら母の手は止まったと思います。

一方、父からは、唯の一度も叩かれた記憶がないのです。逆に叩いた母がしかられました。そして、薬をよく塗ってもらった事を覚えています。

今日の福音を読んで、何故このような事を思い出したかと言います。聖書の中でイエス様は愛についてよく叫んだのを私達はよく知っています。敵をも愛しなさいと。

しかし、今日の福音の内容は、すごく厳しい話です。厳しいだけでなく殺伐としていて穏やかではありません。もしこの終末の時が来たら、私達は皆、完全にパニック状態になるのではないのでしょうか。

イエス様はいつも愛を叫んでいたのに、何故今日、この福音を通して怖い話をされたのかと考えてみますと、それは“親の心”ではないかと思えます。もちろん自分の子供を大事にしない親はいないと思えますし、自分の子供の為には命まで捨てようとするのが“親の心”だと思えます。ですから、甘い言葉も掛けるし、褒める事もよくするのですが、たまにはムチ打たなければならない場合もあるでしょう。自分の母の場合も、自分を叩く時に「この子が外れた道を歩む可能性がある」と、その恐れを感じて自分の心を痛めながら行ったのでしょう。この子を何とかしなければと心痛めながらもムチ打ったと思えます。

イエス様は、どのくらいもどかしい心でこのようなひどい言葉を人々におっしゃったのでしょうか。「あなた達を生かすためには、私がこのムチをあげなくてはならない」という気持で今日の話を作ったのではないかと私は理解しました。ですから、第一朗読で読まれた知恵の書の最後にこういう言葉があります。『なぜそれらを支配する主をもっと早く見いだせなかったのか。』(知恵 13・9) 結局、私達は誰でも神様に、イエス様に愛されています。神様が愛して下さっているその恵みに、その愛に、ふさわしい生き方を見せなければならない事をもう一度考えて見ましょう。

イエス様は愛のために私達を励まして下さる時もあるし、試練を与え、涙が出るくらいに痛みを体験させる時もあるのを心に留めましょう。そして、その両方の全てをイエス様が私達を愛するが故に、愛のために、なさる事だと意識するべきだと思ってみました。

ありがとうございます。